



外来フロア



エントランスホール



病室(個室)



屋上庭園



ダイニング

「慈恵医大西部医療センター」
2026年1月
リニューアルオープン



診療科のご案内

診療部門

- 総合診療部
- 消化器・肝臓内科
- 脳神経内科
- 腎臓・高血圧内科
- リウマチ・膠原病内科*
- 循環器内科
- 糖尿病・代謝・内分泌内科
- 腫瘍・血液内科
- 呼吸器内科
- 精神神経科
- 小児科
- 皮膚科
- 乳腺・甲状腺・内分泌外科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 血管外科*
- 小児外科*
- 整形外科
- 脳神経外科
- 形成外科
- 産婦人科
- 泌尿器科
- 眼科
- 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- リハビリテーション科
- 歯科口腔外科

中央診療部門

- 救急部
- 放射線部
- 内視鏡部
- 麻酔部
- 中央検査部
- 輸血部
- 手術部
- 病院病理部
- 感染制御部
- ICU
- SCU
- 血液浄化部
- がん診療センター

診療支援・管理部門 他

- 看護部
- 臨床工学部
- 薬剤部
- 栄養部
- 事務部

*は予約診療の診療科となります。
2026年1月現在



東京慈恵会医科大学
西部医療センター

〒201-8601
東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3480-1151(代表)

公式HPIは
こちら



笑顔をつなぐ場所。



2026年1月 リニューアルオープン

みんながよい顔をしている。
私たちはそんな病院を
目指しています。



地域医療の要から、
未来志向の医療拠点へ

長年にわたり地域医療を担ってきた慈恵医大附属第三病院が、医療・教育・研究の三本柱を強化し、「東京慈恵会医科大学西部医療センター」として新たな一歩を踏み出しました。

このリニューアルの根底にあるのが、「つなぐ」というキーワードです。診療、地域、人生、歴史、未来。この5つの「つながり」強化し、患者さん一人ひとりの人生を豊かにする医療の実現を目指します。

ここでは、本院が目指す「つなぐ医療」の全貌をご紹介します。

- つながり 1 診療をつなぐ
専門性の垣根を越えた、シームレスな高度医療
- つながり 2 地域をつなぐ
信頼と共感で築く、地域共同体としての医療
- つながり 3 人生をつなぐ
出産から看取りまで、人生を豊かに「つなぐ」医療
- つながり 4 歴史をつなぐ
伝統と革新の融合 ~人を思う心と科学の力~
- つながり 5 未来をつなぐ
次世代医療人を育み、未来の医療を紡ぐ



つながり
1
診療をつなぐ

専門性の垣根を越えた、シームレスな高度医療



脳神経・脳卒中センターの新設

脳神経内科と脳神経外科が垣根を越えて協働し、24時間365日、急性期から回復期まで一貫した治療を提供。

最先端技術の導入

MRI・CT装置、血管撮影装置、ロボット支援手術システムなど、最新鋭の機器を駆使し、安全で精密な治療を実現。

診療科の連携

各診療科が独立するのではなく「つながる」ことで、患者さんの病態に合わせた最適な治療ルートを迅速に構築。



多職種が一体となり、患者さんを支える「チーム医療」

医師、看護師だけでなく、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士など、多職種が一体となって患者さんを全人的にサポート。

専門チームの充実

診療科と職種を越える13の専門チームが連携体制を構築。切れ目のない支援で、最適な医療を提供します。

- 緩和ケアチーム
- 認知症チーム
- 栄養サポートチーム
- 摂食嚥下支援チーム
- 摂食対策チーム
- 身体的拘束最小化チーム
- 呼吸療法サポートチーム
- 迅速対応医療チーム (RRS)
- 糖尿病透析予防指導チーム
- 抗菌薬適正使用支援チーム
- 家族支援チーム
- 臨床論理コンサルテーションチーム
- 術後疼痛管理チーム
- 摂食嚥下支援チーム
- 身体的拘束最小化チーム
- 迅速対応医療チーム (RRS)
- 抗菌薬適正使用支援チーム



患者支援・医療連携センター

当院の窓口として、患者さんやご家族、地域の医療機関をつなぎ、安心の医療を支えています。

つながり
2
地域をつなぐ

信頼と共感で築く、地域共同体としての医療

地域共生と最良の治療・療養環境の提供ができるトータルPFM(Patient Flow Management)を実現。



トータルPFM実現のための外来支援

- 1 暮らしや居心地の良さを整え備える
在宅療養支援
- 2 さまざまな分岐点・起点を逃さず、
人生の最終章を支える意思決定支援
- 3 急性期病院として、緊急・重症及び要支援の
見極めと迅速な治療・療養環境の調整を行うトリアージ

医療の「入口」を広げる 予防と健康づくりの拠点

慈恵西部健康推進 (JHOP, ジェイホップ) センターは2023年4月より活動を開始。地域社会と共に、次世代の健康を創造する医療の新たな形を提供します。

目的

疾病予防と健康寿命の延伸。病気を治すだけでなく、健康を守り、未来を育む医療を目指します。

活動内容

地域住民との協働を重ね、予防医学的な視点から健康づくりや早期発見・早期治療のための啓発活動を積極的に展開。



ガジュマルホール

セミナーや講演など地域の皆様や医療機関との連携の場として新たに開設。「健康」や「たくさんの幸せ」という木言葉をもつ「ガジュマル」から命名。



健康に関するディスカッションや運動プログラムの実践指導など、健康関連のイベントを随時開催。

つながり
3
人生をつなぐ

出産から看取りまで、人生を豊かに「つなぐ」医療

私たちは、人生の始まりである出産を支える周産期医療から、乳幼児期の健やかな成長、高齢期の生活の質を守る総老年医療まで、人生のあらゆる段階に応じた医療を提供します。



産婦人科を中心に多数の診療科で支える出産



こどもの成長をお父さん、お母さんと一緒に見守っていく小児科



低侵襲で、回復の早い内視鏡下手術



17床に増えた通院治療室で、よりスムーズな体制を整備



血液浄化部で、患者さんの生活に寄り添った透析支援



“思いやりと慈しみの緩和ケア”全個室21床の緩和ケア病棟を新設

つながり
4
歴史をつなぐ

伝統と革新の融合 ～人を思う心と科学の力～

私たちは、建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」の伝統を大切に受け継ぎます。



伝統の森田療法

森田療法は、1972年に当院で専門的な取り組みが始まって以来、長年にわたり受け継がれてきた伝統的な精神療法です。患者さんが自分の症状を受け入れ、自分らしい生き方を実現できるよう診療を重ねてきました。現在は外来森田療法を中心に、グループ療法やショートケアを取り入れ、時代に即した新たな展開を進めています。



森田療法センター

つながり
5
未来をつなぐ

次世代医療人を育み、 未来の医療を紡ぐ

医療ニーズの多様化・複雑化に対応するため、最先端の医療技術の導入とともに、次世代医療人の育成に取り組み、持続可能な医療の実現を目指します。



高度医療を支える診療体制の充実

診療体制の充実を図る取り組みの一つとして、ロボット支援手術システム(ダビンチ)を導入しました。精密な操作により身体への負担を抑えた安全性の高い手術が可能となり、医師の技術向上にもつながることで、将来にわたって安定した医療の提供が期待されます。今後、各診療科で適切に活用しながら、治療の選択肢を広げるとともに、次世代の医療人材の育成にもつなげていきます。

新病院のDX活用 「Join」アプリ

本学先端医療情報技術研究部が中心となり開発した救命アプリ

- 導入目的
 - 患者さんへの治療開始の時間短縮
- 仕組み
 - 脳内、脳外、救急、放射線、リハ科、看護部など多職種間での共有
 - 画像に対するコメントをリアルタイムで確認
 - 院内外、時間外でも安全に情報共有